

遺跡発掘 関高生ら初参加

北海道・礼文島の国際的な調査

北海道の縄文文化などの調査を目的に礼文島（礼文町）で行われている国際的な遺跡発掘調査に、県立関高の生徒8人が初参加し



遺跡から出土した遺骨などの調査方法についての説明を聴く関高生＝北海道礼文町

た。同校は国の「スーパーグローバル・ハイスクール」に呼応した県独自の国際教育強化校だ。同島北部の浜中2遺跡で

は2011年から、北海道大学とカナダ・アルバータ大学の考古学者や学生らが、夏場に1カ月間調査を実施。今年は6カ国から計約90人が参加している。

高校生たちは、現場で発掘責任者の加藤博文・北大教授の説明を受けた後、廃校舎に設けられた出土物の分類保管場で、専門の研究者から詳しい調査方法などを聞いた。18～20日、各国の参加者とともに発掘や分類作業に携わった。

同校1年の丸山義仁君（15）は「将来は国際協力の仕事をしたいので参加した。もつと各国の人たちと積極的に話したい」と目を輝かせていた。

遺跡の国際調査

高校生8人参加

礼文島、岐阜県立関高

縄文文化などの調査を目的に礼文島（礼文町）で行

われている国際的な遺跡発掘調査に18日、岐阜県立関高の生徒8人が初参加した。同校は国の「スーパーグローバル・ハイスクール」に呼応した同県独自の国際教育強化校だ。

同島北部の浜中2遺跡では2011年から、北海道大学とカナダ・アルバータ大学の考古学者や学生らが、夏場に1カ月間調査を実施。今年は6カ国から計約90人が参加している。

高校生たちは、現場で発掘責任者の加藤博文・北大教授の説明を受けた後、廃校舎に設けられた出土物の

分類保管場で、専門の研究者から詳しい調査方法などを聞いた。20日まで各国の参加者とともに発掘や分類作業に携わる。

同校1年の丸山義仁君（15）は「将来は国際協力の仕事をしたいので参加した。もつと各国の人たちと積極的に話したい」と目を輝かせていた。